

四二二九番

あらた 新しき 年としの初はじめは いや年としに 雪踏ゆきふみ平ならし 常つね
かくにもが

四二三〇番

ふ 降る雪ゆきを 腰こしになづみて 参まる出来でこし 験しるしもあ
るか 年としの初はじめに

ここに、積つむ雪ゆきに重巖ちようがんの起たてるを彫あり成なし、
たく 奇巧たたくみに草樹さうじゆの花はなを綵いろどり発いだす。これに属つけて
じようくめのおそみひろつな 椽久米朝臣じようくめのおそみひろつな広繩ひろつなの作つくる歌うた一首

四二三一番

あきさ なでしこは 秋あきさ咲くものを 君きみが家いへの 雪ゆきの巖いはほに
さ 咲さけりけるかも

あそ 遊行女婦あそびめ蒲生かまふ娘むすめ子の歌うた一首

四二三二番

ゆき 雪ゆきの山齋しま 巖いはほに植うゑたる なでしこは 千代ちよに
さ 咲さかぬか 君きみがかざしに